

道連ニュース

2024年3月号 No.207

北海道生活協同組合連合会

〒003-0803 札幌市白石区菊水3条4丁目1-3

こくみん共済coop北海道会館内

TEL 011-841-8601 FAX 011-841-8605

URL: <http://www.doren.coop>

協同組合ネット北海道主催

オンライン講演会

「食と農から世界が見える」

～狙われる日本の宝と
私たちの武器～ **開催報告**

開催日時：令和6年2月7日(水)13:00～14:30

- 講演者 堤 未果（国際ジャーナリスト）
- 開会挨拶 樽井 功 代表役員（北海道農業協同組合中央会）
- 閉会挨拶 中島 則裕 副代表役員（北海道生活協同組合連合会）
- 司会進行 橋爪 良美（こくみん共済coop北海道推進本部）



2月7日(水)、協同組合ネット北海道主催のオンライン講演会「食と農から世界が見える」～狙われる日本の宝と私たちの武器～が開催されました。国際ジャーナリストの堤未果氏を講師に迎え、348名のお申し込みをいただき、開催いたしました。

講演では、堤未果氏から私たちの生活に密接にかかわる食と農についてビッグテック等の大手資本の囲い込みが進む中、コミュニティの持続可能性を担保する大きな力として協同組合の存在価値を改めて理解することができた講演会でした。地域の強みや協同組合の存在価値を改めて理解することができ、講演会を視聴されました協同組合ネット北海道の役職員及びその組合員、また道民の皆様にとって食と農の問題に関心を持ち、協同組合の活動に積極的に参加しようとする参加者にとって、とても有意義な機会となられたかと思います。

協同組合ネット北海道では、令和6年度も新たなテーマを設け、講演会を計画してまいります。是非、ご参加の程、よろしくお願いいたします。

視聴者アンケートからの感想を一部ご紹介

- これからの協同運動の意義と自由主義経済の中で多様性を守り活かす、たゆまざる努力の必要性を改めて認識しました。皆さんと手を携え、一人は万人のために、万人は一人のために努力していきましょう!!
- 食の安全保障の重要性が良く分かりました。また、協同組合の果たすべき役割を改めて考えるきっかけとなりました。
- テレビや新聞で報道されていない海外のニュースが多くあり、情報がコントロールされていることに恐怖を感じました。協同組合の活動によって食の安全が守られていることに、とても感謝しています。貴重なお話を伺う機会を作ってくださいありがとうございました。
- 具体例が多く、とても分かりやすい講演でした。オープンにならない情報の怖さも痛感しました。SNS社

会で、さまざま流れてくる耳障りのいい情報を過信しないようにしなくてはならないと思いました。ありがとうございました。

- 通常の国内メディアでは知ることのできない、世界の様子を知ることができました。また、どんなに技術が進化しても、自分の頭で考えることの重要性を再認識しました。
- 私たちの生活の裏側を知った感じ。これからも肉も豆も米も、今ある食べ物を普通に食べて寿命を全うしたい。人は求めすぎ。きれいごとだけど、食べる分だけの生活を皆がすれば食糧難にはならないかもしれない。昆虫を食べるのは嫌だな。

堤未果氏・著書のご紹介

ルポ 食が壊れる

私たちは何を
食べさせられるのか？

文春新書／2022年12月16日発売

〈気候変動時代〉における食の
文明史的スケールの危機とは？

ワクチンレタス、人工肉、ゲノム編集、
デジタル農業……

あなたの食べ物は知らぬ間に入れ替わっている！
ベストセラー『デジタル・ファシズム』の著者が暴く
〈フードテック・ファシズム〉

- ・もう牛は殺さない「人工肉バーガー」
 - ・粉ミルクはもう古い！赤ちゃんは培養母乳で
 - ・「ふるさと納税」デビューしたゲノム編集魚
 - ・〈原子カムラ〉の次は〈ゲノム編集ムラ〉!?
 - ・〈デジタル農業アプリ〉の真の目的とは
 - ・食が〈特許〉で支配されるディストピア
 - ・地球の砂漠化を防ぐにはバッファローを見よ！ …etc.
- 巨大資本が仕掛ける強欲マネーゲーム（食の文明史的危機）を描き出す衝撃作！



コープさっぽろ

コープいしかわ 震災支援報告



日本生協連の要請を受け、コープさっぽろ宅配事業本部にて1月22日(月)より2人体制にてコープいしかわへ震災支援を開始いたしました。

支援先はコープいしかわ「のとセンター」となっております。能登半島には「のとセンター」と「のと北部センター」の2センターがあり、「のと北部センター」は被害が大きく現在稼働しておりません。

被災地で一番困っていることは「水が使えない」ことだそうです。2月に入り、少しずつですが水道が復旧し

てきており、組合員さん含め大変喜んでおりますが、まだまだ日常を取り戻すのは難しく大変な状況が続いています。

「のとセンター」の職員も避難所から通勤している方も多数いる状況です。

配達先では多くの組合員さんが避難所にいることからお届け先は限定されていますが、組合員さんとの会話の中で「わざわざ北海道から来てくれてありがとう」など声を掛けていただき、大変な状況が続いており疲労も溜まっているのにも関わらず、どの組合員さんも明るく元気良く配達を迎い入れてくれたのが印象的です。

3月末までコープさっぽろより配達支援を実施する計画ですので、引き続き現地の方々の力に少しでもなれるよう尽力いたします。



配達ルートで道路まで倒壊した家屋



組合員宅訪問風景



被害が大きい「のと北部センター」近辺の道路状況

こくみん共済coop北海道推進本部

組合員へ寄り添い、 最後のお1人まで丁寧に 心をこめた共済金お届け活動



当会では1月1日の能登半島地震の発災を受け、1月3日(水)に災害対策委員会を設置し、北海道としても1月5日(金)に現地災害対策委員会を立ち上げ、最優先課題として組合員に寄り添い、被災調査していくことを確認しました。



雪で被害箇所の見落としがないよう、調査では組合員さんに被害箇所を聞き取りながら、その他の被害がないかも確認し丁寧に調査を行います。

1月10日(水)より毎週1週間ごとに全国各地から、これまで石川244名、富山250名、新潟202名の合計696名、北海道からも新潟に延20名を動員して被災調査にあたっています。

2月19日時点の被災受付件数は合計13,354件で、9,799件が調査済み(調査率73.4%)、約50億円の共済金をお支払いしており、2月末までには能登半島の被害が甚大なエリア以外は収束の見込みとなっています。

石川では、地割れが多く発生し、家の傾きが多数確認され、断水も続いており、避難所生活を送る組合員への対応もすすめています。また、液状化による被害も多数見られ、石川県内灘町や新潟市西区は、通行止めや立ち入り禁止の措置が取られる物件もあり全壊、半壊被害が多数確認されています。

調査にあたって、早速調査に来てくれたことへの感謝のお言葉をいただいております。共済金では完全な再建は難しいにも関わらず、これだけでも助かるというお声も多数いただいております。多くの人に保障を考えるきっかけにもしてもらえよう取り組みを進めて参ります。

被災地では、今なおライフラインの復旧が不十分であり、地域の方々は大変な生活を強いられているため、生活再建の一助としていただくために、最後のお1人まで一日も早く共済金をお届けすべく諸活動を進めていきます。



全国から動員された職員により、毎日、被害認定や住宅調査の日程調整をしています。